

令和2年6月2日

令和元年度 社会福祉法人武田塾本部事業報告

1 はじめに

令和元年は、新しい時代の幕開け。法人武田塾は更なる発展を期して人材の育成と施設連携を標榜して一年間励んで参りました。

そうした中、年度末になり、思いもよらぬコロナウイルス禍に立ち往生してしまいましたが、それもようやく峠を越した感があり、当法人施設も昨年度来目指してきた「人材育成と施設連携」への再開を始めたところです。

緊急事態宣言が発せられてから採った対策は、感染予防を第一義に、事業内容や職員の事情に考慮したこと、家族と利用者の接触を避ける代わりにお楽しみ昼食会を催すなど生活に変化を持たせたことなどが挙げられます。

「集団で出歩いてはアカン」の縛りを伴った子どもたちの休校は、「ヤッター」から次第に「ひまやねん」の喚きが変わって職員をイラつかせ、喧嘩が絶えない、壁を蹴破るなどどんどん荒れ果てていきました。

休校が延び続けることに危機感を抱いた職員は、対応策として一日を午前と午後に分け、午前は学習、午後は映画鑑賞やボードゲーム、カードゲームなど、勉強と遊びを巧みに取り入れて子どもたちを誘い、毎日、ホールで取り組みました。また、夜間のアルバイトがなくなると昼夜逆転した高校生に対しては、夜半施設内で大声を出しては廊下を走り回って発散するエネルギーを無理に押し止めず、宿直人数を増やして事故防止対応に力点を置いて、穏やかに過ごす生活を復活させました。

学習時間にじっと座って課題に取り組んでいる様子や、映画鑑賞、身体を使ったゲームに夢中になり、自転車で駆け回っている様子を適切な距離感で眺める職員は、子どもたちとの関係性が叶っていることを実感し、力だけに頼るやり方は「労多く実にならない」を学びました。

日常に戻ってから職員と子どもたちの関係がどのように展開するか、新しい年度も引き続き「人材育成」と法人内「施設連携」を目指して粛々と臨む所存です。

2. 理事会及び評議員会の開催状況

第1回理事会

6月1日（土） 令和元年度 第1回定例理事会開催

審議事項等

- ・平成30年度法人本部並びに各事業所事業報告
- ・平成30年度法人本部並びに各事業所収支決算報告
- ・平成30年度監事監査報告
- ・理事並びに監事候補者選任の件
- ・評議員開催について

報告案件

- ・平成30年度 理事長及び業務執行理事の職務執行状況について

第1回評議員会

6月22日(土) 令和元年度第1回定例評議員会開催

審議事項

- ・平成30年度 収支決算案の承認の件
- ・理事及び監事選任の件
- ・平成30年度事業報告

報告案件

- ・理事長及び業務執行理事による職務執行報告

第2回理事会

6月22日(土) 令和元年度第2回理事会

審議事項

- ・理事長選任の件
- ・常務理事選任の件

第3回理事会

7月28日(日) 令和元年度第3回理事会

審議事項

- ・賞罰委員会報告承認の件

報告案件

- ・理事長・業務執行理事による職務執行報告

第4回理事会

10月1日(火) 令和元年度第4回理事会

審議事項

- ・武田塾空調設備に伴う補正予算案
- ・給与規程変更案
- ・非常勤職員の就業規則変更案

報告案件

- ・各事業所の事業報告
- ・理事長・業務執行理事による職務執行報告

第5回理事会

12月18日 令和元年度第5回理事会

審議事項

- ・令和元年度 各拠点区分の補正予算案承認の件
- ・経理規程一部変更承認の件
- ・児童養護施設 1階空調設備の取り替え

報告案件

- ・理事長及び業務執行理事の業務執行報告

第6回理事会

令和2年3月24日 令和元年度第6回理事会

審議事項

- ・法人武田塾並びに拠点区分の補正予算案承認の件
- ・令和2年度法人武田塾並びに各事業所の事業計画承認の件
- ・令和2年度法人武田塾の予算案承認の件
- ・就業規則並びに給与規程一部変更承認の件
- ・法人武田塾の組織及び管理規則案承認の件
- ・法人武田塾の処務規則案承認の件

報告案件

- ・理事長及び業務執行理事の業務執行報告

3. 令和元年度（拡大）運営会議

これまでから理事長、常務理事及び各事業所の施設長、管理者が毎週木曜日午前、武田塾に会して理事長からの方針の確認や、施設毎の情報提供、意見交換を交わし、支援方針の確認と連携に努めてきました。

それに加えて昨年度からは、第三木曜日を各施設の主任を会議の場に出席させ、拡大運営会議として現場の声を直接容れて交流を図ることを始めました。

主任にはまた、会議の場で所属事業所の予算執行状況を説明させていますが、それは彼らにとって適切な経営感覚を養う訓練の場ともなっています。

◎ 年間の運営会議の回数

第1回運営会議～令和2年3月26日まで 計52回

内、拡大運営会議は12回

参加者：理事長、常務、武田塾施設長、高井田苑管理者、相談支援事業管理者、事務局主任
（拡大運営会議）武田塾主任、高井田苑主任

4. 特別強化事業として法人施設内連携強化の開始

各事業所が抱える課題について、連携を図ることで解決の糸口が見つかるのではないかと、いうことが運営会議の場の中で話題となり、令和元年11月より連携会議を立ち上げました。

以降本年3月までに既に5回の連携会議を開き、下記に示す児童の抱える課題について認識を一にし、支援に役立つ情報収集や資源の探索、他機関との連携の可能性などについて確認しました。

次年度に向けては下記児童の抱える課題解決に向けて、具体的な手立てに繋がる強化策を求めています。

○武田塾入所児童の障害支援を要する状況

療育手帳所持児童1名 所持可能性のある児童7名(幼児2名、小学生4名中学生1名、
精神障害者保健福祉手帳所持児童3名 取得可能性のある児童6名(小学生2名、
中学生1名、高校生2名)

障害福祉サービス対象児童4名 (可能性のある児童13名)

5. 事業の見直しや今後の展望（昨年10月第4回理事会報告の再掲。一部修正）

（1）元年7月、「小規模かつ地域分散化、高機能化及び多機能化・機能転換」
に向けた計画を大阪府に提出。（別添「小規模かつ地域分散化、高機能化及び
多機能化・機能転換」）

当法人の計画案の骨子として、

- ①令和5年迄に小規模児童養護施設の2カ所増設
- ②分園型グループケアを1カ所増設
- ③グループケアを職員が経営するファミリーホームに転用する

- ④ 本体施設の 2 階 3 階の男女別エリアを 15 名程度の定員とし、愛着や発達障害等の課題を有した児童に特化してグループケアを行う。チーム支援を原則として心理職員やケアワーカーなどの業務分担を明確にするとともに、家族との再統合や（週末）里親との交流を前提とした治療的ケアを図る体制を構築する。
- ⑤ 宿泊訓練エリアを設け、④との関連で親子再統合や里親委託等を目指した支援を開始する。
- ⑥ 一時保護委託を積極的に受け容れ、併せて家族との調整等については児童相談所の依頼を受けて施設が主体的に行う機能を持つ。その為の相談支援活動が可能なケアワーカーの専門性と技量の向上を図る。
- ⑦ 放課後等デイサービスの立ち上げの検討

6. 職員の動静等

（1）本年度採用(令和元年度)

- ・ 新卒採用 5 名
内訳 大卒 5 名(男 1 女 4)
資格 教職、保育士、社会福祉士等
- ・ 嘱託職員 2 名
- ・ 看護師 1 名(准看護師)

次年度(令和 2 年)採用説明会 令和元年 6 月 15 日他計 4 回実施

（2）休職等（令和 2 年 3 月 31 日現在）

病欠 5 名（1 名退職、3 名復帰、1 人名療養中）

所属 武田塾 3 名 高井田苑 2 名

（3）退職

年度途中 3 名 年度末 5 名

7. その他

（1）令和 2 年 1 月 17 日

大阪府、柏原市合同の指導監査
指摘事項等、文書によるものは改善策を報告済

令和2年6月2日

理事長及び業務執行理事の職務執行状況について

1. 中堅職員の年間継続研修をはじめとした各階層の短期研修

(1) 3年目以上の希望職員向けの1年間の継続研修「未来塾」。

(1) 研修の目的

- ① 法人全体の事業内容の理解と把握。
- ② ①を元に、自身の役割を再考、再認識した上で今後の自分のすべき実践プランを立て、実行につなげる。(日常業務の振り返りとプランニング)
- ③ ②のプランをレポートに書き上げ、前もってメンバーに配布する。纏めたものを研修時間に発表する。(文章作成術の向上と伝達力の向上)
- ④ 他者のレポートを読み解き、自身の業務に活かすとともに、それらの事柄に疑問を持ち、改善する意識を高める。(改善や改革に関わる意識を育てる)
- ⑤ グループワークを通じ、話し合う力、纏める力、報告する力を身につける。(キャリアを積んだことの自覚の向上)
- ⑥ 年度の終了時、今後に向けた課題を見出し、解決の仕組みを考え、総和として提案する。(グループワークの成果を披露)

(2) 研修の実際(月1回 第3水曜日)

○ 4月～5月 未来塾の目的

理事長及び管理者による「次世代を担う者への期待」の訓話を受け、研修者各々から「未来塾」に向けたプレゼンテーションを行い、認識を共有するとともに自然発生的にリーダー役や支え役などが生まれ、後に課せられた大きなテーマにチームとして取り組めるまでになった。

○ 6月～9月

- ・ 管理者から見た福祉職とは？の講義後
レポート「私の考える望ましい福祉職とは」
- ・ 法人収支の見方を受講し理解を深める
ディスカッション「法人の収支に関する疑問、質問」

○ 8月～9月

- ・ 地域における社会福祉法人の役割とは？
レポート「研修の学びに関連して自身が興味を持った事柄について」
- ・ 有効な人材を確保し、育成するための方法とは？
「私ができる人材育成とは」

○ 10月～11月

- ・ 未来塾生として企画した催事(創立記念祭)の企画と実行

・創立祭のテーマ

創設者武田慎治郎の基本理念「共に在る」の更なる浸透と「全ての人たちに感謝」の思いを示す、を掲げ、

◎子どもたち、利用者向けに「共に明るく・強く」

◎職員向けに「輝く伝統の創造を」

を、目的とした。

・創立祭は二部構成とし、

◎第一部 子どもたちの取り組んでいるクラブ活動の動画を使った紹介と利用者が自ら進んで何年にも亘って取り組んできた清掃活動の紹介。それぞれ激励と感謝の意を込めて表彰。

式典形式で行われると共に創立時の武田塾の映像や解説を挟み、企画者(未来塾メンバー)の工夫が垣間見られた。

◎第二部 スイーツビュッフェでは武田塾創立当時のお菓子を現代風にアレンジしたものを提供した。未来塾メンバーに調理員が入っていたことで企画に彩りを添えられることができた。

○ 11月

標題「法人で働く職員のメンタルヘルス問題について」を10月に受講

以下の小タイトルで各々がレポート提出

☆現場職員の現状は？

☆塾生など、利用者自身の現状は？

☆前向きに仕事ができる環境とは？

その後自由討議

○ 12月 引き続き職員のメンタルヘルスへの対処の仕方等について意見交換

○ 1月以降 施設別・在職年数別の実態調査を行う。

併せてストレスにちなんだ職員アンケートの実施等の意見であるが、実施に向けた検討すべきことが多く次年度に以降の課題とした。

(3) 1年間の研修総括

○研修の狙いと実践という観点で評価すれば、研修当初の狙いとして定めた以下の項目

①法人全体の事業内容の理解と把握

②日常業務の振り返りとプランニング

③文章作成術の向上と伝達力の向上

④改善や改革に関わる意識を育てる。

⑤キャリアを積んだことの自覚の向上

⑥グループワークの成果を披露

について、大部分のメンバーは前向きに試みようとの意識が継続的に働いていた

ように思われる。

「法人の課題を見出し、解決の仕組みを考え、総和として提案する。」という狙いが効を奏したとはいえないものの、一体的に取り組むという姿勢が参加した職員の大部分が次の機会に挑戦しようとする意識が芽生えたことは成果として評価できる。

（２）本年度昇格職員の研修

本年度昇格した職員に対して更なるキャリアアップを目指し、５月に採用した主任待遇職員をリーダーとして専門性の更なるキャリアアップを図るための課題を与え、元年度後半に各自からのプレゼンを義務づけ、幹部職員も交えた形で率直な批判を交わして、互いに鍛え合うことを目的とした研修を行った。

- １．講師による講演を通じて個々に課題を見出し、自分の仕事にどう活かすかについてレポートする。
- ２．「副主任の立場から見る私の職場の課題と解決策」のタイトルでそれぞれプレゼンし、続いて先輩職員との間にディスカッションをおこなう。
- ３．プレゼンの方法は各自がスライドを駆使して発表し続いて各事業所の管理者がそれぞれ質問や意見を交えて感想を述べた。管理者の忌憚のない意見はシビアなもので当事者も必死に応答し、真剣そのもののやり取りができた。

（３）新人職員研修

- １．４月９日、４月１０日

理事長、事務局長からの講話

各事業管理者並びに事務局からの事業所の理念や実務面に亘る講義及びディスカッションがおこなわれた。

- ２．令和元年１１月８日(金)

フォローアップ研修

就任半年後の幹部職員による講義と親睦会を実施。

半年を経過したレポートは子どもと正対した真剣な生のやり取りが綴られ具体的に、成長が期待できる印象深いものだった。

２．令和元年度（拡大）運営会議

昨年度からは、第三木曜日を各施設の主任を会議の場に出席させ、拡大運営会議として現場の声を直接容れて交流を図ることを始めました。

狙いは、主任の経営感覚を養うことと、実際に予算の仕組みを学ばせることにあり、今後も継続して取り組む方向で進めます。

3. 特別強化事業として事業所間の連携強化を目指した対策会議

法人内運営会議における情報交換を契機として昨年11月に3事業所の連携の必要が議題に上がり、連携強化策が図られた。11月以来既に5回の対策会議が行われ、今後の成果が期待される。

4. その他

(1) 令和2年1月17日

大阪府、柏原市合同の指導監査

指摘事項等、文書によるものは改善策を報告予定